

“鍛えて、ほめて、伸ばす！子どもの可能性”
 ～「鍛ほめ福岡メソッド」展開中！～



福岡教育事務所・社会教育室

事業報告	令和5年度福岡教育事務所管内「読書好きを育む環境づくり応援事業」 ～読書活動応援隊スキルアップセミナー～	
期日	令和5年6月15日（木） 13:30～15:50（受付13:00～）	
参加者	39名（オンライン参加）	
日程	時間	内容
	13:00	【受付】
	13:30	【開会行事】
	13:35	【説明】 「本セミナーの趣旨について」 福岡教育事務所 社会教育室 社会教育主事補 矢野 貴士
	13:45	【講話】 「利用者像を明確にした図書館づくり～札幌市図書・情報館から～」 あさの たかお 札幌市中央図書館 調整担当部長 浅野 隆夫 氏
	14:45	【休憩】
	14:55	【演習】 「子どもの気持ちに寄り添った企画棚ワークショップ」 あさの たかお 札幌市中央図書館 調整担当部長 浅野 隆夫 氏
	15:45	【閉会】
活動の実際	<p>【講話】 初めに、札幌市中央図書館調整担当部長の浅野隆夫氏に、講話をしていただきました。浅野氏は、札幌市電子図書館や札幌市図書・情報館など、様々なタイプの図書館の立ち上げに関わっておられ、札幌市図書・情報館は、「ライブラリーオブザイヤー2019」の大賞とオーディエンス賞を受賞され、年間約100万人が訪れています。ターゲット</p>	 <p>【浅野氏による講話の様子】</p>

を絞りヒアリングを行ったことや、図書館員の工夫を活かした企画棚「ハコニワ」を設置したこと等、図書館を運営する上で大切にしたこと等をお話いただきました。また、先進事例（札幌市図書・情報館）を題材に、いかにICTを活用するかということで、司書がその創造性を形にしやすくなっているか、そしてそれが利用者の情報探索行動の上で、いかに満足度をあげているかについても御講話いただきました。

参加者アンケートには、「いつでも最新の情報が棚にあることの重要性と導線のあり方が、大変参考になりました。」や「斬新なアイデアがたくさんありました。日ごろの気づきや司書の要望、ターゲットを絞ること、どれも大切だなと思いました。」等の感想がありました。

【演習】

演習では、まず、参加者がオリジナル企画棚の「テーマ」や「テーマに合わせた本」「棚の説明」等を考え、オリジナル企画棚についてワークシートに記入しました。次に、ブレイクアウトルームを活用し、3人から4人程度のグループで、最初に作成したワークシートを見せ合いながら交流を行いました。企画棚には、「お金と仕事～お金のために働くか、夢のために働くか～」や、「今日、野菜、何食べた??」等、大人から子どもまで、様々な利用者像に合わせた企画棚がありました。それを伝え合うことで、さらに発想が広がり、交流が活発になりました。その後、全体場で参加者数人が作成したワークシートについて浅野氏から紹介・講評等をいただきました。このような演習を通して、配架や選書についての視野や考え方を広げ、参加者の創造性を高めることができました。



【浅野氏による演習の様子】

参加者アンケートには、「コピーライターになった気分で面白かったです。自分の悩み事や人に伝えたいことを、『伝えるため』の整理もできた気がしました。」や「他の参加者の企画棚のアイデアが聞いて良かったです。学校司書やボランティアなどの立場が違う方それぞれの発想があり、それを聞くことでまたアイデアが浮かび、今後の参考になりました。」等の感想がありました。

全体をとおして

参加者のアンケートには、「学校の図書室でも、立体展示や本の向きなどを工夫してディスプレイするなど、子どもの気持ちを引き付ける工夫ができると楽しい図書室になると思いました。やってみたいです。」や「今、旬のテーマや役に立つ情報など、手に取ってもらえる本棚をめざして、新しい利用者の方を増やしていきたいです。」「本と人を繋ぐために、ささやかで良いのでどんなことが出来るだろうと、もっと柔軟な発想をもち、職員間で情報を交換したいと思いました。」等の感想があり、参加者がそれぞれの立場で、今後の取組のヒントを得ていただけたのではないかと考えます。

福岡教育事務所といたしましても、本セミナーで学んで終わりではなく、学んだことを一つでも実践していただけるように、引き続き支援を行っていききたいと思います。